

短期予報解説資料 2026年2月11日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 九州付近には前線を伴った低気圧があって東北東進し、寒冷前線が南西諸島を通過中。低気圧や前線に向かって南から暖湿気が流入し、九州南部～四国沖で強い雨を解析。
- ② 東シナ海には500hPa 5520m付近で-27℃以下の寒気を伴うトラフがあって東進。
- ③ 日本海北部には低気圧があって東北東進。気圧の谷が北日本から東～西日本日本海側のびて東進し、1時間10ミリ未満の雨や雪の降っている所がある。
- ④ ①③の低気圧や前線の周辺

や日本のはるか東の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き波の高い所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は1項②のトラフと対応が良くなり、11日は発達しながら本州南岸から伊豆諸島を通過して日本の東へ進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、前線付近では雷を伴い激しい雨が降って大雨となる所がある。西～東日本太平洋沿岸を中心に11日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意。東日本では注意・警戒。1項③の影響もあり、全国的に11日は、落雷、突風、降ひょう、短時間強雨に注意。前線付近では竜巻などの激しい突風に注意。また、東～北日本の山地では11日は、本州南岸を進む低気圧や1項③の気圧の谷の影響で湿った雪の降る所がある。大雪による交通障害や着雪に注意。東日本では注意・警戒。
- ② 1項③の低気圧は11日は北海道を通過して千島近海に進む。その後12日にかけて西高東低の気圧配置となり、12日午後には500hPa 5220m付近で-33℃以下の寒気を伴うトラフが北日本を通過する。13日は南高北低の気圧配置となるが、夜にかけて500hPa 5400m付近で-30℃以下の寒気を伴うトラフが北日本を通過する。西高東低の気圧配置や上空の寒気の影響で、13日にかけて降雪の続く所がある。北日本では13日にかけて、大雪による交通障害や着雪に注意。
- ③ 北～西日本の多雪地では13日にかけてなだれにも注意。特に西日本の山地では、まとまった降雨量や平年よりも高い日が多い下層気温の影響で、なだれが一層起こりやすい状態が数日続く。
- ④ 2項①②の影響で気圧の傾きが大きくなり、風が強く吹いて波が高くなり、しける所がある。北～東日本は13日にかけて、西日本と南西諸島は11日は、強風、風雪や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

①雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。②降雪量(06時からの24時間)：北海道30、北陸20、関東甲信15、東北・東海・中国10cm。③波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島4、その他全国的に3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。



主要じょう乱解説図